

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ことばの教室ことのは5号館			
○保護者評価実施期間	2025年 2月 3日		～	2025年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	19	(回答者数)	16
○従業者評価実施期間	2025年 2月 3日		～	2023年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数)	11
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 3日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	【安全性と専門性の高い職員体制】 就学後の体格の大きな児童に対して男性スタッフを中心に配置し、トイレや着替えなどでの異性への配慮を徹底しています。また、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士などの多様な専門職による充実した支援体制を整えています。	【職員配置における配慮】 - 就学後の体格の大きな児童に対して、男性スタッフを中心とした配置 - 異性への配慮（トイレや着替え時）を徹底 専門性の高い支援体制の構築 - 理学療法士- 作業療法士- 言語聴覚士など、多様な専門職を配置し、充実した支援体制を整備	【職員の専門性向上とチーム連携の強化】 - 定期的な専門研修の実施と各職種間の知識共有 - 固定ミーティング時間を活用した効果的なチームコミュニケーションの確立
2	【利用者ニーズに応える総合的なサービス】 言語発達支援、コミュニケーション能力の向上支援、感覚統合理論を用いた学習支援の提供、そして身体活動の機会提供など、児童の総合的な発達をサポートする様々なサービスを展開しています。	【チーム制による運営体制】 - 昼礼、終礼でのチーム別会話の促進 - 集団活動を重視した活動方針の実施 ミーティングの活用 - 固定的なミーティング時間の設定 - チームでの児童に関するディスカッションの機会創出	【総合的な支援サービスの質的向上】 - 言語発達支援、感覚統合理論、学習支援など、専門的サービスの統合的な提供 - 保護者ニーズに応じたコミュニケーション支援の充実
3	【子どもの発達を促す環境設定】 当施設では、児童が遊びやすく活動的な空間を設計し、集団活動を重視した方針のもと、安全性を確保しながら子どもたちの自主性を育める環境を提供しています。	【児童が遊びやすい空間づくり】 - 運動遊具や教材を適切に配置し、活動しやすい空間を確保 活動的な環境の提供 - 運動や感覚遊びができる十分なスペースを設け、子どもたちの身体的発達を促進	【安全で発達を促す環境づくり】 - 活動的な空間設計と安全性の確保の両立 - 児童の自主性を育む環境設定と個別ニーズへの対応

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	【地域交流や情報開示の周知度が低い】 事業所にて保護者との申し送りは行っているが、事業所で取り組んでいる避難訓練の様子やSNS(インスタグラム等)の運用情報に関しては、言及している保護者の方はまばらな状態です。	【情報開示の方法が確立されていない】 - 情報発信に関する担当者が明確になっていない - SNSやブログなどの更新が不定期 - 地域との連携を図る機会が少ない - 保護者への情報提供方法が限定的 - 広報活動の計画が具体化されていない	【情報周知への工夫】 - 情報発信担当者の選定と役割の明確化 - 定期的なSNS更新スケジュールの策定 - 地域イベントへの参加や協力体制の構築 - 保護者向け定期便(案：ことのは便り)の発行 - 年間広報計画の立案と実施
2	【チーム内のコミュニケーション不足】 職種間の役割理解が不十分で、チーム内での率直な発言や質問が少ないです。会話をする時間が十分に確保できておらず、スタッフ間でグループが分かれ、協力関係が築けていません。	【異なる職種の役割の理解が不十分】 - 主体的な行動が少なく、受動的な姿勢が目立つ - 職種間の連携が不足している - コミュニケーション機会が限られている	【チームワークの改善】 - 定期的なケースカンファレンスの実施 - 固定されたミーティング時間の設定と効果的な運営 - チームビルディング活動の実施による相互理解の促進
3	【支援における積極性の欠如】 率先してリーダーシップを取るスタッフがおらず、怪我への不安から児童と積極的に関われないスタッフがいます。 これにより、アクティブな活動や主体的な支援が制限されている状況にあります。	【他職種で取り組む支援・支援の方法が未確立】 - 安全面への過度な不安により活動が制限される - 個々の専門性を活かした支援が不足 - 体系的な支援計画の立案が困難	【支援の質の向上】 - 安全管理マニュアルの整備と定期的な見直し - 各専門職の強みを活かした支援プログラムの開発 - 支援計画作成の効率化とパターン化による業務改善